



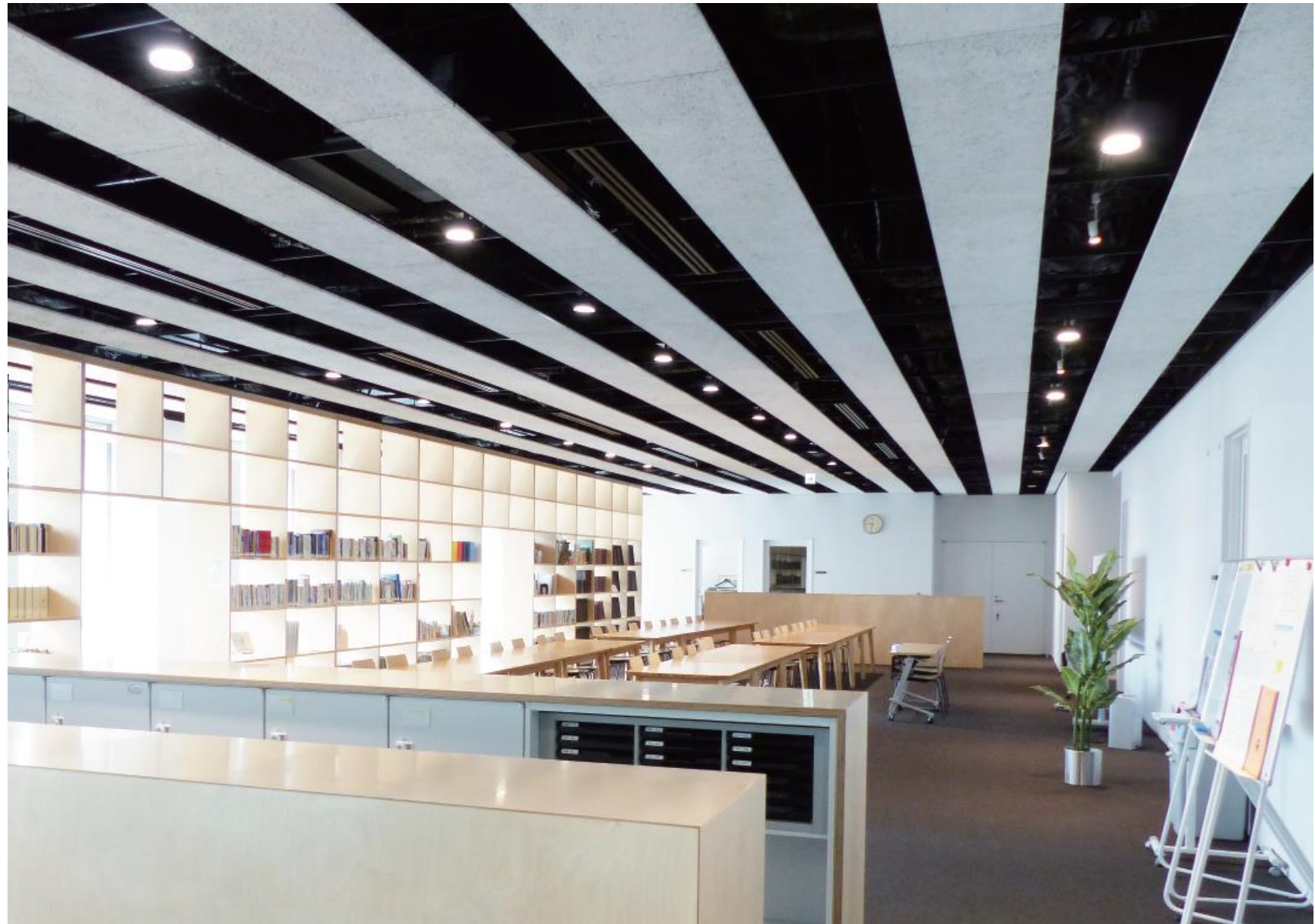
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY Research Organization for the 21st century
Research Institute for Tourism Industry
大阪府立大学 研究推進機構 観光産業戦略研究所





Rifti Logo





About

リフティ (Rifti = Research Institute for Tourism Industry) は、地域創造・観光創造を研究し、実践するシンクタンクです。現代の「観光」の課題は、大きく広がっており、特にアジア圏から大阪へのインバウンド観光は、近年著しい伸びを示しています。独自のホスピタリティーの確立や地域コンテンツの再評価が求められており、従来の観光の枠組みを越えて、地域ブランドに関わる産業、食や文化コンテンツ、エンタテイメントなど文化創造産業（クリエイティブ・インダストリー）の振興にも注目が集まっています。

—

観光の究極的本質は、トランス・カルチュラル・コミュニケーションにあるという視点のもと、私たちの研究プロジェクトは、世界各国とのコラボレーションを目指します。とりわけ、アジアの各都市を始めとする創造都市ネットワークの展開や、近年世界を横断する概念と実践であるデザインとアートを核とした観光創造、またグローバルに見られる次世代型の都市観光などは、大きなテーマです。

—

リフティは、知的創造のための工房として機能したかつての「バウハウス」のように、「実践する研究者」の協働組織として都市の文化力や具体的な地域のプロデュースを目指します。競争力のある調査研究機関として、地域創造・観光創造のための新たなビジョンや戦略を提示します。

Rifti (Research Institute for Tourism Industry) is a globally oriented think-tank for the regional development and tourism creation in Osaka, Kansai ; Rifti aims to be the center of excellence in these areas of research. Today tourism has the potential to provide regional economic, cultural and environmental benefits for both the people in the region and those coming here from all over the world. Rifti has been established in Osaka Prefecture University to provide world-class research for Osaka-Kansai as a destination for in-bound tourism, along with the necessary marketing, and the contribution to the tourism and hospitality industry here. A collaborative effort, based on new tourism trends, has been made between Rifti's role in academia and the tourism industry, and their interdependence with government and the local communities. Through these collaborative efforts Rifti will support research, instruction, and extension / outreach activities essential to the regional development, industry practice, local community development, and tourism creation.

Objectives: Rifti aims to support and provide direction in building high-level competencies in national and international research collaboration within the tourism business practice.

The primary areas of research will include:

- Creative city and urban tourism
- Landscape design and tourism resource management
- Destination development and participatory tourism planning
- Leisure-time consumption
- Art and cultural heritage as a base for experience tourism
- Tourism policy and community development

Researcher

経済学研究科 教授／観光産業戦略研究所 所長

橋爪紳也 | Shinya HASHIZUME

専門：建築史／都市文化論／都市観光研究

略歴／活動：京都大学工学部建築学科卒、京都大学大学院工学研究科修士課程、大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。大阪府特別顧問、大阪市特別顧問、大阪商工会議所都市再生委員会副委員長、大阪商工会議所ツーリズム振興委員会副委員長、大阪府市文化振興会議会長ほか兼職。大阪市立大学都市研究プラザ特任教授、浙江大学客員教授。イベント学会副会長。IR＊ゲーミング学会副会長。『明治の迷宮都市』『水都』大阪物語』『大阪の教科書』『モダン都市の誕生』『瀬戸内海モダンizm回遊』他、著書・編著多数。



「**研究員インタビューから**」20世紀、私たち人類は「空間」と「時間」を縮めることに成功しました。鉄道・自動車・船舶・航空機など、効率的かつ高速で移動する技術を次々と実現させたのです。

21世紀、さらに世界は狭くなりつつあります。観光・ビジネス、保養や医療、聖地への巡礼、世界遺産の訪問、社会貢献やボランティア活動など、さまざまな目的で、私たちは異文化の地に足を踏み入れます。世界規模での驚くべきツーリズムの発達や、文化の交流を促し、経済を発展させつつあります。アジアや中東、南米、そしてアフリカ諸国など、目を見張る経済成長を遂げつつある地域からも、膨大な数の観光客が旅立つようになりました。かつては冒険家だけが命を賭けてようやくたどりついた秘境でさえ、誰もが安全に到達できる人気の観光地に転じています。

都市もまた、人々の憧れを喚起するツーリズムの目的地です。人々は仕事のために、また学びのために、そして自由な時間を楽しみ、人生を謳歌するために憧れの大都会に集います。魅力ある都市は、世界中から人類が産み出した「文明の磁力」にはかなりません。私は集客の「装置」と「制度」である都市を、肯定的にとらえ、デザインし、計画する立場にたって、研究を重ねています。



橋爪がキーパーソンとなり「大阪ミュージアム構想」「水都再生」「水と光のまちづくり」など、大阪の都市魅力向上と価値創造を推進。

Researcher

経済学研究科 教授

上村隆広 | Takahiro UEMURA

専門: 社会システム論 / ツーリズム社会論

略歴 / 活動: 京都大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻単位取得退学、文学修士。大阪女子大学学芸学部人間関係学科、同人文社会学部人間関係学科、大阪府立大学総合教育研究機構（高等教育推進機構）を経て現職。2012年度より大阪府立大学現代システム科学域 環境システム学類担当。2013年度より大阪府立大学大学院経済学研究科 観光・地域創造専攻担当。



| 研究員インタビューから | ことマストツーリズムに関しては、近代産業社会の本格的な発展が可能にした余暇・レジャー活動の一つとして人々になじみ深いものとなった一方で、画一化・規格化された文化消費に共通の「弊害」として、旅や観光体験の陳腐化や平板化、顧客偏重による観光対象の過剰演出や捏造など、文化的価値の自己毀損的傾向も顕在化し、さまざまなオルタナティブ・ツーリズムやニュー・ツーリズムが模索されるようになりました。

“ホンモノ”や“唯一無二”を“実感”したいという願望・欲望それ自体が、各種のメディア接触によってかき立てられるというパラドクシカルな状況のなかで、売り手と買い手、仕掛け人と踊り手がさまざまな駆け引きを繰り広げる、それもまた現代の観光を構成する一つの側面です。

観光は複合的な産業であると同時に、個人のレベルから社会システムや文化のレベルまでを巻き込みながら広がり、私たちが生きているこの世界や社会のあり方を鏡のように映し出し、私たち自身のあり方を問いつ返すような、そうした奥深さをもった社会現象、文化現象であると言えるでしょう。



ソウル市内の公園で開かれた市民フェスティバルの様子

Researcher

経済学研究科 准教授

花村周寛 | Chikahiro HANAMURA

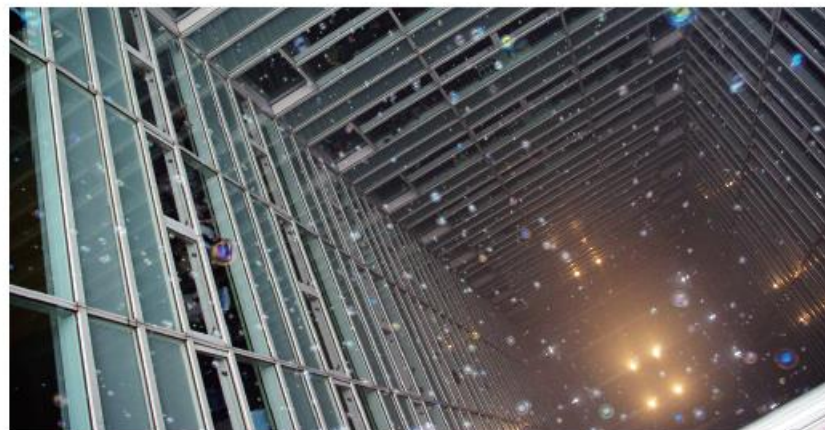
専門：ランドスケープデザイン／風景異化論／観光デザイン／アートマネジメント

略歴／活動：博士（緑地環境科学）。民間デザインオフィスにて国内外のプロジェクトに関わった後、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター助教を経て現職。大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員、2012年、DSA 空間デザイン大賞・日本経済新聞社 賞受賞。堺市芸術文化審議員、クラウドファンディングサービス「READYFOR of THE YEAR 2014」クリエイティブ部門賞受賞。



「**研究員インタビューから**」 人間は身体も心も旅を求めています。人類は誕生してから定住生活をするまでの長い間、ずっと旅を繰り返してきました。その頃の地球上の風景は自然の営みしかありませんでした。しかし一定の土地で定住するようになり、その土地の自然を改変することで、人間の営みによる風景が加わりました。食料を得るために作物を育て、家畜を飼い、雨風を防ぐために建物を建て、集まって住みながら集落を作り、それが都市へと発展して人類はひとところに住むようになります。そうやって身体の旅が少なくなると、今度は心の旅が大きくなります。絵を描き、音を奏でる芸術を生み出し、見えないものへ想像力を傾ける信仰や宗教を生み出し、祭りや儀礼を行い、様々なその土地の文化を生み出しました。

それぞれの土地の自然と文化があわさった風景が、これまで培われてきましたが、この150年ほどの間に、その離れた風景を結ぶネットワークが急速に発達しました。鉄道が敷かれ、自動車生まれ、飛行機生まれ、今では簡単に身体の旅をすることができます。そしてインターネットやマルチメディアなどの情報技術によって、身体の移動を伴わず様々な情報の中に飛び込む心の旅も今や可能です。そんな新しい旅の時代の中では、次の新しい文化をいかに創造するのかを、観光デザインの研究と実践を通じて考えています。



誰もまなざしを向けなかった病院の吹き抜け空間をシャボン玉で「異化」することで、入院患者と医者、看護師のコミュニケーションの場となる。



photo: Chikako HANAMURA



公立大学法人
大阪府立大学 I-siteなんば

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号
 南海なんば第1ビル3階
 Tel. 06-7656-4483

- 南海電鉄「なんば駅(中央出口)」下車、南へ約800m、徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」下車、南へ約1,000m、徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅(1番出口)」下車、東へ約450m、徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」下車、西へ約450m、徒歩約7分
- 南海電鉄高野線「今宮戎駅」下車、北へ420m、徒歩約6分

編集・発行:大阪府立大学研究推進機構 観光産業戦略研究所 (Rifti)
 E-mail: tourism@21c.osakafu-u.ac.jp
 発行日: 2017年8月20日
 ©Rifti 2017 本フレットで使用している写真・文章の無断による転載・複写を禁じます。

